

公益社団法人 信和会

看護奨学生だより

2025年5月号

公益社団法人信和会 看護部長 鴨川聰子



新たな年度がはじまり、一人一人がそれぞれの一歩を踏み出す季節になりました。新入生の皆さんには、入学から約1ヶ月が経ち、戸惑いながらもワクワク感いっぱいの毎日を過ごされていることでしょう。気温もあたたかくなり、京都の街中は、どこもかしこも外国からの来訪者でとても混雑している状況です。みなさんも日常生活の中で外国の方と接する機会があるのではないでしょうか。

さて、みなさんには、看護職を目指すにあたり、様々な研究家の看護理論を学校で学びますが、マデリンM.レイニンガーの「文化的ケア理論」をご存じでしょうか。文化的な違いを尊重し、個人の文化に合わせたケアを提供することを目指す看護理論です。わたしたちが住み・学ぶ京都では、ツーリズムの状況もあり、医療機関で文化が違う外国の方に出てくわすかもしれません。是非、読んでみることをお勧めします。看護学生であるからこそ、アンテナを高くし、地域で起きていることにも目を向けて看護を考えていきましょう。

京都民医連あすかい病院 看護部長 征矢陽子



新入生のみなさんは入学おめでとう。在校生のみなさんは、看護師への道のりが見えてきたでしょうか。コロナを乗り越えてきた医療現場ですが、2024年の診療報酬改悪とケアを必要とする方や物価高騰等への手当が充分でない社会の歪みから、コロナ禍以上に逼迫し経営破綻している事業所もあります。夢や希望を持って学習に励んでいるみなさんと一緒に働く日のために、もっと看護にゆとりがもてる笑いやりがいあふれる現場へとできるよう考え、たたかっていきます。看護の知識や技術とともに、医療や介護の現場や世界で起きている事にも関心を持ってみてください。平和で必要な方に必要なケアが届けられる社会のために、自分も大事にできる社会のために、いのち・人権を大事に考えられる看護師を目指して歩んでくださいね。

京都民医連あすかい病院 副看護部長 谷淵未生



入学・進級おめでとうございます。病院では、皆さんの先輩である新人看護師さん10名をお迎えしました。医療安全、感染対策に基づいた看護技術を集合研修で学んでいます。様々な職種の職員が、講義を担当しています。病棟では、先輩とペアになり、看護ケアを患者さんから学ばせていただいています。たくさん詰め込まれて大変ですが、真面目にコツコツと、看護を経験しています。がんばれ新人ナース！そのうちできるようになるから！と思いサポートしています。

看護師のたまごである学生のみなさんの応援もしています！看護学校での基礎教育は患者さんとの関わりに必ず活かされます。学校での学びを大切に過ごしてほしいです。

京都民医連あすかい病院 副看護部長 物部理奈



5月の連休も終わり、木々の葉が鮮やかな緑色になる今日この頃、皆様いかがお過ごででしょうか。新年度となり、新たなスタートと出会いの時期、看護専門領域の授業や長い実習の始まりがあり緊張の日々かもしれませんね。

学びの道を歩む中で、挑み前に突き進むこともあれば、つまずき立ち止まることもあるでしょう。時には自信をなくし人が羨ましくなることがあるかもしれません。それでも、しっかり道を歩めていると自分に自信を持ってくださいね。あなたの頑張ってきた道は必ず意味のあるものになりますから。これからは暑くなる季節、体調に気をつけて学校生活を楽しく送ってください。

あすかい子供食堂

子ども食堂は、無料または低額で利用できる食堂です。「みんなで食べるとおいしいね」という思いのもと、大人も子どもも楽しく食事をしながら交流し、困りごとがあればできる範囲で助け合う、温かい居場所となっています。貧困対策や個食対策の一環ではありますが、地域の誰もが気軽に参加できる場でもあります。

左京区養正小学校区を中心に、月1回の開催で、子どもたちにカレーライスなどの食事を無料で提供し、地域のコミュニティづくりを目指しています。地域実行委員会のメンバー やボランティアスタッフが協力して運営し、退職教員のボランティアによる宿題を中心とした学習支援も行っています。

また、地域の小学校や学童クラブ、保育園、民生委員などに協力を呼びかけ、子ども食堂の開催を知らせています。さらに、食料支援を行う「連帯ひろば」に来られた方にも、無料で食事を提供しています。

親御さんには生活や健康不安などの相談窓口としての機能も発揮できたらと考えています。「弟と来た。美味しかったです。また来ます」(高野中学校1年)「お兄ちゃんと来た。美味しかった。また来るね」(養正小4年生)「養正小学校の4年生です。美味しかった。また春休みに来ます。宿題持ってきます」「毎月、月に1回 子ども食堂があるので安心」「宿題もみてももらえる」「友だちと一緒に ご飯が食べられてうれしい」といった声をもらっています。

メニューは、カレーライスとフルーツ缶詰やお持ち帰りプレゼントとして、京都ほっとはあとセンターのマドレーヌなどのお菓子やミカンなどお渡ししています。今後も 地域のつながりづくりにも貢献したいと考えています。



月1回=第2木曜日 17:00
～19:00(+夏休みに臨時1回)
京都市左京西部市民いきいき
活動センターふれあいサロン。
子どもさん20名くらい、
親御さんなど大人の方20名く
らいが参加。ボランティアス
タッフは、地域・友の会・職員・
学生ボランティアさんなど10
名くらいで運営しています。

ポジティブコンテスト

今年もポジティブコンテストを開催しました、8つの部門からエントリーがあり、1年間の奮闘・成功事例が発表されました。

透析センターでは以前より災害対策チームがあり、地震や火災に備えをしてきましたが、能登半島地震を契機に更なる見直しを行いました。フローチャートは地震と火災時の2つのパターンを作成し、いざという時に使うヘルメットと一緒に常備。また透析カードをリニューアルしてより見やすい物に改善し患者さんに配布しました。さらにシェイクアウト訓練を患者さんと一緒に訓練し、毎月1日と15日の伝言ダイヤル訓練も行っています。防災マニュアルの配布やニュースを発行し、今後も患者さんと一緒に災害対策に取り組んでいくとのことでした。

外来看護からは、「多職種合同学習会、チームワークの大切さ」について発表されました。スタッフからの疑問や不安の声をきっかけに、内視鏡室で急変対応について医師・看護師・臨床工学技士合同のACLS学習会を開催しました。アナフラキシーショックを想定しロールプレイングを行い、それぞれの意見を交換して学びを深めました。処置室の応援要請や搬送など課題が明らかになりそれぞれの役割が明確になりました。またインシデントをもとに放射線課・外来看護師での合同の学習会を開催し、マニュアルを見直して手技の統一を図りました。



全体で22名の職員が現地参加し、各部署の努力や実践が詳しく伝わりました。5S活動の浸透を感じられ、他部署の取り組みが参考になったとの声もありました。特に、多職種との共有による改善や、患者さんのための学習・レベルアップを図る取り組み、失敗から学ぶ姿勢が高く評価されました。成功を積み重ねることで職場環境の向上につながるとの意見もありました。来年度も事業所全体で協力しながら取り組んでいきます。

あすかい病院 リハ部紹介

はじめまして、あすかい病院、リハビリテーション部です。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護士、事務を合わせると数十名になる、京都でも有数の大所帯のリハビリテーション部です。

入院中の急性期から退院後の生活期まで、入院リハビリ、外来リハビリ、訪問リハビリ、通所リハビリと幅広くリハビリを展開しています。多職種協業、チーム、連携を大事に医療・介護活動を行っており、皆さんと一緒に働く日を楽しみにしています。

また、若いスタッフが多く、フットサルやバレーボール、ボーリングなどのスポーツ、リハビリテーション部主催の音楽会の開催など仕事だけでなく、余暇活動にも全力で取り組んでいます。



あすかい病院 キラっと看護の紹介

音楽がつなぐ回復への道 — 病棟で生まれた温かい交流

回復リハビリ病棟では、脳梗塞の治療を受けている患者さんが、リハビリの一環としてギター演奏に挑戦していました。以前も脳梗塞を患った際にギターを使ったリハビリに取り組み、弾けるようになった経験があり、今回も同じ方法で回復を目指して練習を続けていました。「また弾けるようになったら、みんなの前で演奏したい」と、希望を持って取り組んでおられました。

ある日、デイルームで他の患者さんが不安なご様子で落ち着かれないときがあり、その時、そのギターでリハビリをされていた患者さんが弾き語りを披露しました。

その弾き語りを聴いているうちに、患者さんは次第に落ち着かれ演奏に耳を傾けられるようになりました。後で、演奏していた患者さん自身も「自分の歌を聴いて涙を流してくれた」と嬉しそうに話されていました。



病棟にはさまざまな患者さんがいて、日々の関わりの中でお互いの存在が支えになっています。

音楽が生み出す温かい時間が、患者さん同士のつながりを深め、職員にとっても忘れられないひとときでした。

あすかい病院 外来看護部の紹介

あすかい病院の外来看護部は、内科・整形外科・泌尿器科・婦人科・眼科・精神科・緩和ケア・ボトックス・乳腺外来・皮膚科の診療科目があり、内視鏡・造影 CT・MRI 検査などの治療介助をしています。



その他には、採血や点滴、検査前処置や時間外の患者、入院、転院対応を当番医師と連携をとり行い、診療のない時間帯も 24 時間体制で救急患者の対応をしています。

外来は患者さんが来院されないと病状や生活背景が把握しにくい現場です。何か変化が起こっていないか？次の外来までこれでよいか？外来看護師や、他職種とアンテナを張合って患者さんを見守ることを大事にしています。